

人口問題研究所

貸出用

研究資料第一〇二号

昭和三〇年二月一〇日

血族結婚部落の優生学的調査

—山梨県南巨摩郡西山村奈良田部落

調査（昭和一八年）の調査報告—

厚生省人口問題研究所

はしがき

本研究はかつて昭和十八年山梨県下の一血族結婚部落について優生學的調査を行つたが、その結果は極めて有意味なものであつたにかゝらず、種々の事情のため、一部資料として發表されたほか研究資料として發表されることがなかつた。本報告は今回更に保存資料に再検討を加えてその全貌を報告したもので、本調査に実地調査員の一員として参加した徳崎僧男技官の執筆によるものである。

昭和三十年二月十日

人口問題研究所

目次

一	序	9
二	調査対象部落の概要	4
三	年齢別人口と親族構成	7
四	初婚年齢別、婚姻期間別にみた現存子供数	10
五	妊娠、血圧、ツェムルクリン反応その他疾患の状態	11
六	形貌学的調査結果について Morphological	17
七	相競学的観察結果について Physiognomical	22
八	握力、脊筋力及び肺活量について	23
九	その他の調査結果について	24
十	総括	24

血族結婚部落の優生学的研究

山梨県南巨摩郡西山村

奈良田部落における調査

篠崎 信 男

一、序

本調査は一九四三年九月血族結婚に関する優生学的研究のために行われたものである。日本において血族結婚部落と称せられるものは欧米に比して遙に多く、一九四九年奈良田郡道府県当局よりの回答のみより見ても、一〇二ヶ町村に散在し、一七四部落を数えた。戸数にして一二四九九月、人口七〇〇六七人であるが更に詳細に調査すれば、この数値より遙に上廻るものであることが推察されるのである。

例えば一九四九年度、和歌山県における調査の結果は親族間志の結婚（いとこ、いとこ半又いとこ、それ以上の親戚）の割合は夫婦百組に対して、都市八・四％農村二二・八％山村二一・六％漁村一一％に達し平均一五・四％の率を示したのである。これ等親族結婚の中でいとこ同志の夫婦が四〇％を占めて最高を示し、所謂七親等以上（又いとこ以上の遠縁）のものが三一・三％で之に次ぎ、又いとこ同志が二〇％、いとこ半が八・七％の順である。斯る親族間志のもの組合せが起る確率が少くないであろうと推測される別の統計は通婚範囲を行政区割別にみた一つの結果であるが、同村同志のものが夫婦になつてゐる

割合は和歌山県の調査では二七・三%で同郡同志のものを加算すると、六五・五%に達し、更に同県同志のものまで加算すると、全夫婦の八〇・四%がこの中に入る計算になる。従つて斯る同県同志のもの組合せが多いことは、必然的に劣性遺伝因子の重複組合せ確率を高める結果を招来するであろう。又年次別にみると、一九二〇―一九二九年の親族結婚率は二一・二%、一九三〇―一九三九年一七・三%、一九四〇―一九四九年一五・七%、一九五〇年以降一九・〇%となつて有意の差をもつて血族結婚が減少しているとは考えられない状態である。従つて本人同志が親戚同志であることを知らない夫婦まで入れると、この割合は更に上昇するものと思われる。

以上の様な日本の現状より見て、斯る問題は人口の資質問題として集団遺伝学 (Population Genetics) 的効罪という見地から研究される必要があることは言ふまでもない。以下述べる処は斯る研究の一部として、より典型的な部落を選んで、調査研究を行つた結果の概要である。なお、本調査には著者の外横田、良田阿博士その他数人の協力の下に行われたものである。

二、調査対象部落の概要

山梨県南巨摩郡西山村奈良田部落は山間に流れる早川の最北端、上流地城で、白根山の南麓に位置し、北緯三五度三十六分、東経一三七度一七分、海拔八百二八米で、月数僅かに四十余戸の小部落である。本部落の起源を尋ねると、紀元七五〇年凡そ今より千二百年前、孝謙天皇の御代に朔り、近畿地方の古郡、奈良に因んで奈良田と命名されたとある。その後、この地に人間が居住した形跡はあるが古文書によつて判明した処では一五五六年

今より約四百年前深沢孫左エ門と言ふ名前が見られる丈で、それ以前は不明である。従つて確實なことは、この深沢孫左エ門より現在まで三八代を経過していると言ふことである。従つて現在四六戸中四二戸は何れも深沢姓を名乗つてあり、この四戸は、あとからこの土地に入つた人々で例えば、学校の教員、僧侶等である。

斯る僻地では水田はなく、畑、山畑、桑園、林及び原野で、作物は大麥、小麥、粟、そば、大豆、小豆、とうもろこし、きび、ひえ等を作り、交通不便なるため外界と隔離され比較的の血族濃度を純粋に保持し、現代に到るまでいとこ、いとこ半、はとこ、叔父、ぬい等の血族結婚を幾代に亘つて重ねて来たもので、まさに典型的な代表部落である。本部落より約十軒、川下に現在では湯島部落がある、これは川を狭んで上湯島と下湯島の二小部落から成つてゐるが、計七七戸で、深沢の姓を名乗るものは四五戸、約五八%で、しかも他の家系の人々と既に結婚してゐるものが多い。従つて純粋度の高い奈良田部落と混血度の進んだ湯島部落とを比較して、その変化を眺めることが出来るのである。この混血度は古文書に依る資料からは求められなかつたが、寺に保存され得た過去帳より推して三百年前より始つてゐると思われ。従つて地理的条件から下湯島に先づ始まり、次いで上湯島に次ぎに混血が行われたであろうことは深沢姓は下湯島に多く二六戸を数え、上湯島は一九戸しか残存してない事実からも察知出来るであろう。此等の部落は始めは湯島村、奈良田村と二つに分れていたのであるが、一八八三年行政的に合併されて現在の西山村となつたのである。役場において調査し得た範圍の正確な人口動態は才一表の如くである。従つて一九四三年調査時における人口は凡そ九五七名で、一九四二年度調査における民有地としては、畑約一三八六・五エーカー、山林八五八エーカー、原野四一・三エーカー、宅地八八・八エーカー、その他四六八〇エーカー計七〇五四・六エーカーとなつてゐる。

第一表 西山村の人口動態

年次	人口	出生数	死亡数	出生率 (1000に付)	死亡率
1909	705				
1910	715				
1911	729				
1912	729				
1913	730				
1914	740				
1915	754				
1916	797				
1917	817				
1918	817				
1919	828				
1920	826				
1921	775	29	25	37.4	32.3
1922	781	24	14	30.7	17.8
1923	793	32	18	30.3	22.7
1924	792	23	15	29.0	18.9
1925	797	24	16	30.1	20.1
1926	801	22	18	27.5	22.5
1927	814	29	17	35.6	20.9
1928	823	21	17	25.5	20.7
1929	842	28	14	33.3	16.6
1930	850	28	16	32.9	18.8
1931	859	21	14	24.4	16.3
1932	875	24	11	27.4	12.6
1933	882	23	9	26.1	10.2
1934	876	32	8	36.5	9.1
1935	869	26	10	29.9	11.5
1936	878	23	15	26.2	17.1
1937	901	40	15	44.4	16.6
1938	911	35	20	38.4	22.0
1939	909	21	22	23.1	24.2
1940	922	25	12	27.1	13.0
1941	938	29	13	30.9	13.9
1942	945	35	17	37.0	18.0
1943	957	18	9	18.8	9.4
1947 (センサス) Census taking	877	21	7	23.9	8.0
1950 (センサス) Census taking	763	21	7	27.4	9.2

又現住戸数は農家が一一四戸、林業を営むものが六戸、商家が六戸、その他七戸であり、計一三三戸となるが、この中一二三戸が奈良田、湯島両部落にあり、残りの十戸はこれ等両部落の中間に西山温泉があつて旅館業その他を営んでいる。農家が圧倒的に多いことは全戸数の八五・七%を占めている事実からも明らかであるが、この中、専業農家は僅に六戸に過ぎず、その他は才一種兼業農家が八二戸、才二種兼業農家が二六戸であり、しかも五八戸は自作、一五戸が小作で、残りの五〇戸は自小作の割合となつてゐることから、農業のみでは生計の難しいことを物語つてゐる。更に土地生産収穫の主なるものを述べると稲が僅に一六二・四立、桑二六万二六八七疋、大麥三七一六〇立、小麥二一六五立、果実一二〇〇疋、養蚕による收購高一一五〇一疋であり、家畜類としては、鶏、雌六五羽、雄七羽、馬四頭、山羊、牝三四頭、牡四頭に過ぎないのである。これでも一九一五年以前（明治時代）は農作物が悪く、部落民は木製のひしやく、下駄等を山林の木を伐り倒して製作し行商しなければならなかつた。その後一九三〇年頃より次才に農地の改良が行われて農作物もよくなり、又山林を買いに来る人々も増して部落民にも金が入るようになったのである。従つて一九一五年以前は、山に猟に行つて猪、兎、熊の肉を食したり、川魚等をとつて補いとしていたもので、調査当時においても、斯ることは部落民に行れてゐた。

三 年齢別人口と親族構成

五才階級別にみた人口構成を奈良田、湯島両部落別にとると才二表の如くである。若干の凹凸はあるが年齢の低い程男女とも人口が多くなつてゐることは常識通りであるが〇才―四才層が五才―九才層に比して低いのは本調査が九月のため未だ年内に出産さる

表二 奈良田、湯島部落別男女5才階級別の人口構成

年 齢	男～奈良田～女		男～湯島～女		男～計～女	
	男	女	男	女	男	女
0才～4才	14人	20人	28人	25人	42人	45人
5～9	26	20	37	25	63	45
10～14	15	16	30	32	45	48
15～19	19	16	15	30	34	46
20～24	16	18	27	17	43	35
25～29	15	15	22	9	37	24
30～34	10	22	11	16	21	38
35～39	15	16	12	20	27	36
40～44	10	19	13	8	23	27
45～49	12	19	14	13	26	32
50～54	13	8	13	7	26	15
55～59	6	11	8	10	14	21
60～64	7	9	8	9	15	18
65～69	6	12	6	10	12	22
70～74	9	6	2	4	11	10
75～79	3	8	0	4	3	12
80～84	2	0	0	1	2	1
85～89	2	0	0	2	2	2
90～94	0	1	0	0	0	1
95～99	0	0	0	0	0	0
計	200	236	246	242	446	478

註 合計924人で才一歳の957人と合はないのは才一歳は本籍人口であり本歳は常住人口であるので、39人は本籍は西山村にあつても地方に居住しているものである。

可き数を全部含んでいないのに依る。

而部落別に男女の割合を見ると、何れも男子人口の多い年齢層は五才―九才層、五〇才―五四才層で、女子人口の多い年齢層は、十才―一四才層、三〇才―三四才層、三五才―三九才層、五五才―五九才層、六〇才―六四才層、六五才―六九才層、七五才―七九才層である。従つて奈良田、湯島兩部落の進いは他の年齢層にみられ、例えば〇才―四才層、二〇才―二四才層、四〇才―四四才層、四五才―四九才層等は前者に女子が多く、後者に男子が多い年齢層である。

他の年齢層は、これと逆の現象を示している。総括すると一般に女子人口の方が多く、男子人口の多い年齢層は五才―九才、二〇才―二四才、三五才―三九才、五〇才―五四才、七〇才―七四才、八〇才―八四才の六階層に止つてゐる。従つて総計は、奈良田部落に女子人口が多く、湯島部落は僅に男子人口が多い。

次に深沢姓を名乗る親族人口と他の人口とを部落別に示せば、才三表の如くである。即ち奈良田部落は極めて僅かしか非血族人口は無く、しかも調査日現在では、此等の間に親戚関係は存在してゐない。従つて各年齢層八八%以上は凡て血族人口であり、平均すれば九五・九%を占めてゐる。之に反して、湯島部落は深沢親族と他の親族との間に既に婚姻関係が結ばれてあり、従つて、その人口の割合も多くて七二%の年齢層が見られる丈で平均五三・九%の割合である。然し湯島部落では深沢姓を名乗つていても、それは深沢の血液が入つてゐるといふだけで、奈良田部落の濃度とは異り、生物学的にはかなり混血した深沢親族であることは注意を要する。従つて西山村全体として深沢姓を名乗る人口は七三・七%を占め、五才階級別にみても、最低は五才―九才層の六五・七%より最高は高

年齢層にみられる百%に達してゐる。然してこのように深沢親族が多いからといつて、彼等の間に結婚に對して特別慣習や、原始民族にみられる如き風習制度がある訳ではない。

表三 奈良田、湯島部落別 5才階級別の
深沢親族人口と他の人口との状態

年 齢	奈良田		湯 島		計	
	深沢姓	他姓	深沢姓	他姓	深沢姓	他姓
0~4才	99 (97.1%)	1	30 (56.6%)	23	69 (72.4%)	24
5~9	49 (93.7)	3	28 (45.2)	34	71 (65.7)	37
10~14	91 (100.0)	0	95 (56.5)	27	66 (71.0)	27
15~19	94 (97.1)	1	28 (62.2)	17	62 (77.5)	18
20~24	32 (94.1)	2	29 (52.3)	21	55 (70.5)	23
25~29	29 (96.7)	1	17 (54.8)	14	46 (75.4)	15
30~34	91 (96.6)	1	11 (40.7)	16	42 (71.2)	17
35~39	29 (95.5)	2	14 (43.8)	18	49 (68.9)	20
40~44	27 (93.1)	2	9 (42.9)	12	36 (72.0)	14
45~49	90 (96.8)	1	16 (59.9)	11	46 (79.9)	12
50~54	21 (100.0)	0	14 (70.0)	6	35 (85.4)	6
55~59	15 (88.2)	2	19 (72.2)	5	28 (80.0)	7
60~64	16 (100.0)	0	11 (64.7)	6	27 (81.8)	6
65~69	16 (88.9)	2	7 (43.7)	9	23 (67.6)	11
70~74	15 (100.0)	0	4 (66.7)	2	19 (90.5)	2
75~79	11 (100.0)	0	2 (50.0)	2	13 (86.7)	2
80~84	2 (100.0)	0	0 (0.0)	1	2 (66.7)	1
85~89	2 (100.0)	0	1 (50.0)	1	3 (75.0)	1
90~94	1 (100.0)	0	0	0	1 (100.0)	0
95~99	0	0	0	0	0	0
計	418 (95.9)	18	269 (59.9)	225	681 (79.7)	249

註 括弧内の字は各年齢層の人口中に占める深沢親族人口の割合である。

現在は日本の行政制度に従っているのであるが、斯る山奥の隔離された地理的条件のために、必然的に血族結婚をせざるを得なかつたというのが実状のようである。

従つて住民は自己の血統が皇族の流れを汲んでいるという、ひそかな誇りを持つてあり、他の血族結婚部落民に見られるような、排他的な卑屈性はない。然し本村の経済事情から高い教育課程を子女に授けることが極めて困難で、現在まで小学校以上に進学したものは九人に止つている。即ち、高等専門学校以上大学卒の学歴を持つものは五人、農学校や商業学校の中学校程度のものが四人であるが奈良田部落出身者では中学校以上の学歴を持つたものは皆無である。

四、初婚年齢別婚姻期間別にみた現存子供数

本村における妻の年齢四五才までの夫婦数は調査日現在で二四七組を数えるが、この中七組は不在のため調査不能であり、又二八組は妻が再婚で九組は全く妊娠しない夫婦であつた。従つて残りの一〇三組について調査日現在における子供数を、状態を初婚年齢別に見ると才四表の如くである。

これによると子供数二人ないし四人を持つ夫婦が多い。昭和十五年度出生産力調査による全国一夫婦当りの出生児数と比較すると稍々低い。即ち全国平均初婚者は三・五人であるが本村では二・九人である。

次に婚姻持続期間別に見ると才五表の如く婚姻持続期間が長くなるにつれて子供数を多く持つ夫婦が増加しているが、反面、又子供を失つて一人も子供を持っていないものも見られる。然し無子夫婦率は全国の無子夫婦一二・三%の約半分で少い。

才 四 表

初婚年齢別に見た現存子供数
(1943)

現在子供数	才 才 15~19	才 才 20~24	才 才 25~29	才 30~	計
0人	2	8	2	1	13
1	5	8	3	—	16
2	6	9	1	—	16
3	6	11	3	—	20
4	3	11	3	—	17
5	4	2	2	—	8
6	1	2	—	—	3
7	2	5	2	1	10
計	29	56	16	2	103

才 五 表

婚姻持続期間別に見た現存子供数
(1943)

現存子供数	年 年 0~4	年 年 5~9	年 年 10~14	年 年 15~19	年 年 20~24	年 年 25~29	年 30~	計
0人	11	—	—	—	1	—	1	13
1	9	8	1	—	1	2	1	16
2	1	5	3	3	2	—	2	16
3	—	2	4	4	6	1	3	20
4	—	1	4	4	1	4	3	17
5	—	—	1	3	1	2	1	8
6	—	—	—	—	2	—	1	3
7	—	—	—	—	4	3	3	10
計	15	16	13	14	18	12	15	103

更に各部落別に見ると血族結婚部落の奈良田部落では早婚者が多く、従つて才一子を出生する年齢は平均して二〇・四才であるが上湯島部落では平均二三・八才、下湯島部落では平均二四才である。

最後に参考までに再婚者二八組も入れて、その分娩回数を見ると才六妻の如く三回、四回、五回が多いがこれと現存子供数と比較するとかなりの差が見られる。つまり分娩後の死亡がないとすれば五六一人の現存子供数であるが、事實は三〇四人であり、二五七人が生後死亡していることになる。斯る山間の僻村に於ける乳幼児死亡率の高いことが考えられる。斯る原因の一つとして血族結婚は妊娠はするが産後の成長に問題があり、若死するものが相当あることは遺伝衛生学的に研究する分野を説いている。

才 六 妻

分娩回数	夫婦数
0	3
1	13
2	12
3	20
4	25
5	24
6	14
7	6
8	10
9	3
10	0
11	1
計	131

才七表

初潮年齢及び月経持続に数について

初潮年齢	人数	月経持続日数	人数
13才	1人	2日	10人
14	6	3	58
15	17	4	20
16	45	5	7
17	35	6	—
18	16	7	5
19	1	2日~3日	1
不明	26	3日~4日	6
		4日~5日	5
		3日~6日	1
		不明	34
	計	147	

妊娠、血圧ツベルクリン反応その他疾患の状態

本村住民女子の初潮年齢、及び月経持続日数の状態を見ると才七表の如く初潮年齢は十六才、十七才が一番多いが、これは日本人全体から見ると少々遅いようである。又月経持続

日数は三日の処に集してはいるが、これは日本人平均の四日ないし五日と比較すると少い。一般に月経週期については一一八名、凡そ八〇%は順調である。三〇日型一三一日型が最も多い。妊娠障害の中、主なものは、つわも及び悪阻が最も多く、腎臓炎、浮腫的疾患がこれに次いでいる。産褥経過については頭痛、後腹痛、長期に亘る臥床等で、特に無医村である関係上相当の苦痛が訴えられている。従つて分娩も長時間要するものが多く、分娩後の適当な養生も不十分である。死産率は二一例、早産が十例で、出産千について五二・六%を示している。次に血圧の状態を部落別、男女別に見ると才八表の如くである。

表 八 身

部落別男女別の血圧の状態について
(年令30才以上のみ)

血 圧 数	奈良田部落		湯島部落	
	男	女	男	女
99~99	一人	一人	2人	6人
100~109	1	9	3	8
110~119	11	7	10	17
120~129	8	12	11	13
130~139	6	3	10	8
140~149	4	3	11	3
150~159	0	1	1	1
160~169	0	1	3	2
170~179	1	0	1	1
180~189	—	—	0	1
190~199	1	0	—	—
200	0	1	—	1
計	32	37	52	61

何れも三〇才以上についての調査結果であるが、両部落間に著しい相違は見られないが、七〇才以上の七人の中湯島部落では血圧百七〇以上のものは皆無であるが、奈良田部落では九人の中二人である。然し六〇才—六九才までの人々を見ると奈良田部落では血圧一六〇

以上のものは十四人中二人を数えるだけであるが、湯島部落では十九人中七人を占めているのが目立つている。

表 九 才

陽性率によるツ反応の年齢別

年 齢	奈良田部落		湯島部落	
	調査数	陽性率	調査数	陽性率
0～9才	37人	29.7%	65人	30.8%
10～19	25	28.0	70	41.4
20～29	11	9.1	21	47.6
30～39	17	17.6	28	53.6
40～49	18	11.1	32	37.5
50～59	7	14.3	20	40.0
60～	13	30.8	16	37.5
計	128	22.7	252	39.7

次に結核感染状態をツベルクリン反応によつてみると奈良田部落では男子五二名中、十六名、即ち三一%が陽性であり、女子は七六名中十三名、即ち一七%が陽性であつた。之に対して湯島部落においては、男子一一九名中四七名、三九・五%が陽性で、女子も一三三名中五三名、三九・八%が陽性で男女とも略同率の状態を示し、いずれも、奈良田部落より感染率が高い。

また年齢別にみると才九歳の如く一般に湯島部落の方が感染率が高いが、特に二〇才代、三〇才代において、その差が著しい。反対に〇才―九才、六〇才以上は接近している。以上の問題は奈良田部落が一帯山奥にあり、これ等二〇才代、三〇才代のひとびとの生計行動距離が比較的地理的條件によつて隔離されていることが考えられると同時に、五才―九才までの児童は小学校での集団教育のために感染が容易であることなどが述べられる。因みに〇才―四才までの乳児を比較して見ると、奈良田部落では陽性者は一人もなく、湯島部落でも十三人中僅かに一人であるが、五才―九才までの児童を見ると、奈良田部落では二八人中一人、三九・三%が陽性であり、湯島部落では五二人中一九人で、三六・五%の陽性率であつて、かえつて奈良田部落に高率である。次に血族結婚濃度の高い奈良田部落の過去帳を

参考としつゝ、面接質問調査によつて得た過去の死亡者の実態について若干その特徴的なものを述べて見れば癩病が最も多く、猪病者に対しては山腹の掘立小屋に隔離して自然死を待つような方法がとられた。その他白痴、てんかん、先天性聾聵、精神分裂症、神経痛等が挙げられ、自殺者をも出している。二〇才代三〇才代に死亡するものが此等の死亡者の中では多い。

調査日当時は發育不全の乳幼児が目立つだけで、愚質遺伝者と思われるものは七〇才以上のひとびとを除いて大体淘汰されたようである。

従つて現在は白痴はいないが、魯鈍性のものがあり、智能程度の低いものが多いことは争れない。

六 形貌学的調査結果について

形貌学的研究対象としては阿部部落総計三四二人を対象としたのであるが、先づ満二〇才以上の成人についての比較研究を行つて見ると、男女別部落別の状態は才十表、才十一表の如くである。

本表によれば男女とも最大頭長が奈良田部落民に長く示されている。概して頭部において、その特徴が著しい。身長は湯島部落民より若干低く外背巾は広い。然し形態学頭高は小さく、従つて鼻高も小さい。即ち奈良田部落民は隣接湯島部落民より顔の中は広いが鼻高は低く、頸幹部においては身長低く肩巾も小さいが、胸囲、頸囲は大きい。上肢長は小さいが、腸骨棘高は逆に大きい。近隣の長野県人の身長（158.95±0.23）及び山梨県人の

才 十 表

形貌学的計測値の比較 (20才以上の男子)

計測項目	奈良田郡落		湯島部落	
	実数	(cm) 平均値	実数	(cm) 平均値
頭 囲	36	55.58±0.27	39	54.95±0.23
最大頭長	37	19.03±0.09	39	18.72±0.08
最大頭巾	37	15.98±0.07	39	15.28±0.09
前頭最小巾	37	9.95±0.06	38	9.87±0.06
額 弓 巾	37	14.19±0.09	38	14.21±0.09
下 額 骨 巾	37	11.01±0.16	38	10.99±0.01
鼻 高 巾	37	5.94±0.06	39	5.49±0.07
鼻 巾	37	3.50±0.04	39	3.42±0.05
口 巾	37	4.65±0.07	39	4.62±0.07
外 背 巾	37	9.11±0.07	39	8.87±0.07
内 背 巾	37	3.82±0.06	39	3.67±0.05
形態学顔高	37	12.61±0.12	39	12.59±0.10
全 頭 高	36	21.89±0.16	38	21.51±0.12
形態学耳長	37	3.49±0.05	39	3.52±0.05
形態学耳巾	37	5.31±0.09	39	5.49±0.07
相貌学耳長	37	6.14±0.07	39	6.13±0.07
相貌学耳巾	37	3.10±0.05	39	3.12±0.04
身 長	35	156.86±0.88	38	156.92±0.75
坐 高	35	83.46±0.56	39	84.36±0.38
上 肢 長	34	69.29±0.46	38	68.94±0.44
肩 巾	35	36.21±0.31	38	36.25±0.36
腸 骨 棘 高	15	87.00±1.16	35	84.49±0.56
頸 囲	36	34.00±0.23	39	32.90±0.23
胸 囲 静 時	36	84.94±0.59	38	83.90±0.61
胸 囲 吸 氣 時	36	86.95±0.57	38	86.09±0.59
胸 囲 呼 氣 時	36	83.72±0.60	36	83.17±0.67

表 十 一

形態学的計測値の比較 (20才以上の女子)

計測項目	奈良田部落		湯島部落	
	実数	(cm) 平均値	実数	(cm) 平均値
頭 周	34	53.85±0.25	33	53.88±0.32
最大頭長	35	18.11±0.07	44	17.99±0.09
最大頭巾	35	14.66±0.09	44	14.48±0.07
前頭最小巾	35	9.46±0.07	44	9.61±0.08
額 弓 巾	35	13.41±0.09	44	13.38±0.10
下顎 骨 巾	35	10.34±0.09	44	10.42±0.10
鼻 高 巾	35	4.84±0.06	44	5.26±0.05
鼻 巾	35	3.17±0.05	44	3.16±0.04
口 巾	35	4.34±0.07	44	4.33±0.07
外 背 巾	35	3.94±0.05	44	8.78±0.07
内 背 巾	35	3.66±0.04	44	3.55±0.04
形態学顔高	34	11.72±0.10	44	11.97±0.09
余 頭 高	33	20.88±0.22	42	20.91±0.19
形態学身長	35	3.40±0.05	64	3.61±0.05
形態学耳巾	35	5.14±0.07	64	5.18±0.05
相貌学耳長	35	5.80±0.07	63	5.87±0.05
相貌学耳巾	35	3.01±0.04	64	3.10±0.03
身 長	36	146.31±0.84	43	147.88±0.75
坐 高	36	79.31±0.66	43	80.26±0.40
上 肢 長	35	63.29±0.44	42	63.95±0.44
肩 巾	36	33.07±0.25	42	33.67±0.20
腸 骨 棘 高	27	83.99±0.53	43	80.26±0.57
頸 周	35	30.09±0.36	43	29.31±0.21
胸 囲 静 時	35	76.00±0.66	42	75.50±0.57
胸 囲 吸 気 時	35	77.49±0.65	42	77.02±0.55
胸 囲 呼 気 時	35	75.94±0.63	40	74.55±0.63

身長 (150.23+0.41) に比しても本部落民の男子は劣つてゐる。然し最大頭長、最大頭巾に
おいては山梨県人の最大頭長 (150.74+0.50) 最大頭巾 (151.23+0.35) よりも大きい。概して本
血族結婚部落民の特徴は軀体全体が小さいが、頭部は比較的大きく、顔は巾が広くて高
さが低く、又腰高は高いが、坐高は低い。胸囲は割合に大きい型であると當うことが出来
る。

次に八才より十五才までの児童について参考までに計測値を比較して見ると、才十三歳
の如くである。八才―十五才まで丁度發育年令層にまたがつてゐるものを一括して平均値
を出したものであるが、傾向だけはこの表からも見ることが出来よう。即ち最大頭長は此
処でも稍々大きく出ているし、外背巾も大きい。然し坐頭高や形態学頭高は低く示され、
身長においても小さい。然しこの年令では上肢長肩巾は逆に大きく示されてあり、腰高は
男女によつて相違しているのが目立つ。従つて年令の若い中に成長学的に見て形成されて
行くような形質では、既に成人において見たような差が見られるが、その他は所謂血族結
婚と血族濃度の薄い部落民の遺伝学的な成長速度というものが問題とならう。身長は日本
人全國の学童に比して一般に低く、特に男子においてその差は著しい。

才 十 二 表

8才～15才の学童の計測値比較

(単位 cm)

計測項目	奈良田部落		湯島部落	
	男(31人)	女(28人)	男(48人)	女(47人)
頭 囲	51.00	51.60	51.60	50.6
最大頭長	17.58	17.58	17.27	17.11
最大頭巾	14.58	14.43	14.55	14.45
前頭最小巾	9.28	9.19	9.21	8.50
額 引 巾	12.59	12.52	12.51	12.57
下 顎 骨 巾	9.76	9.57	9.61	9.57
鼻 高 巾	4.25	4.35	4.59	4.67
鼻 巾	2.96	2.93	2.90	2.89
口 巾	3.80	3.79	3.65	3.71
外 背 巾	8.61	8.95	8.41	8.39
内 背 巾	3.51	3.71	3.54	3.60
形態学 額高	10.33	10.48	10.56	10.74
形態学 耳長	3.40	3.44	3.35	3.35
全 頭 高	19.20	19.50	20.29	20.48
形態学 耳巾	4.43	4.58	4.57	4.59
相貌学 耳長	5.18	5.48	5.54	5.29
相貌学 耳巾	3.00	2.97	3.02	2.85
身 長	123.00	130.70	125.00	129.40
座 高	67.20	78.80	69.20	72.90
上 肢 長	52.20	55.50	44.4	43.8
肩 巾	27.40	29.20	25.6	25.6
胸 囲 静時	61.30	62.00	62.8	62.4
胸 囲 吸気時	63.50	64.40	66.5	66.5
胸 囲 呼気時	60.10	62.80	64.6	62.2
頸 囲	26.40	26.50	25.9	25.4

注：標準誤差を計算せず平均値のみを示したので比較上注意する要がある。

相 貌 学 的 観 察 結 果 に つ い て

顔形は男性は長方型が多く、女性は何型と長方型とは分れている。口唇の分岐による毛髪は黒色直毛で虹彩色も黒褐色を呈し近接部落民と大差はないが、眼瞼は一重瞼

(男三五%、女二五%)のものが近接部落民の一重瞼(男一六%、女一五%)よりも多い。二重瞼(男一七%、女二五%)と御嶽(Kadifalte)が優越するものが多く、女子の左右の眼瞼

において差が見られる。即ち奈良田部落の女子の右眼瞼で斯る相貌を持つものは四三・九%で湯島部落民女子のそれより(四四・三%)少いが左眼瞼においては四八・六%に達し近接部落民女子の左眼瞼の斯る頻度(三三・五%)より遙に上廻っている。

額骨は強く出ているものが隣接部落民のそれよりも多い(奈良田三六・一%、湯島三三%)が、その他は大差はない。鼻液は男子で六二・三%が直状をなすが、女性ではかえつて凹

状のものが多く五一・四%を占めている。湯島部落の男では鼻液の直なるものは四七・五%であり、女子では率も四八・八%と多く凹状のものは三五・三%に過ぎない。従つて鼻

底面は男子が水平で(六三・三%)女子では前上方(六三・九%)に向つているものが多い。額の毛髪の生え際の輪廓は女子は何れも水平のものが多く大差ないが、男子は湯島部落民は凹状が多いに反してやはり奈良田部落民は水平である。

その他の特徴については大差はないが、本血族結婚部落民調査によつて得た若干の所見を述べると特に耳部観察において前耳輪体が中央にて弛緩し、緻密なく、そのために(耳輪体)が途中で切れているものや、耳輪足に赤黒のものが出現しているものがある。(Antherix-1)

Unterschiedel (と出る)

表 十三 才

握力、脊筋力、肺活量の調査状況
(20才以上)

項目	奈良田部落		湯島部落		
	実数	平均値 (kg)	実数	平均値 (kg)	
男子	握力(右)	26人	37.62±1.19	40	38.15±0.90
	"(左)	26	36.04±1.48	40	37.08±1.06
	脊筋力	26	112.89±4.40	41	117.44±3.25*
	肺活量(cc)	29	3572.42±123.36	42	3633.33±101.05
女子	握力(右)	22	26.27±0.91	40	28.38±0.80
	"(左)	22	23.96±0.96	40	26.35±0.59
	脊筋力	22	67.96±3.18	38	75.26±2.19
	肺活量(cc)	33	2515.15±85.29	38	2739.49±55.14

八 握力脊筋力及び肺活量について

又耳甲介縫 (Covcha Cymba) に縦の皺が出現しているのもあつた。又ダーヴィンゲン氏耳介縫 (Darvinschen Höckerchen) も五人に発見したと等が述べられる。

握力、脊筋力及び肺活量について行つた調査は才十三表の如くである。これに依れば男

女いづれも握力、脊筋力、肺活量等において奈良田部落の方が劣つてゐることが分る。特に脊筋力において、その差が著しい。又肺活量において吸気、呼気の差に著しいものがないにも拘らず、斯る差が示されたことは注目すべきである。要するに運動力の問題において血族結婚部落民は良好な結果を示してゐないといえらると思ふ。

九、その他の調査結果について

血族結婚部落民の性格、氣質、精神状態について觀察した所見を述べると、一般に部落民は長い間の山間生活によつて、共同生活をして来た關係上、團結心に富んでいる。

然し乍ら性質は極めて温厚であり又それだけ保守的でもあり、伝統的な生活形態を存続させている。従つて他の血族結婚部落に見られるような排他的な卑屈感に捕れていない。近代は交通が便利になつたために、次第に血族結婚の濃度が薄くなりつゝあり、愛親が予想されるが、生活程度はかゝり低く、本部落の經濟問題が深刻な問題となつてゐる。

一〇、總括

以上の結果を總括すれば、血族結婚部落民は出産力は比較的に低く、しかも、死産産するものも少なくない。又妊娠障害も無視出来得ないものがあり、従つて月経生理状態も一般に良好とは言えない。

又形貌状態は頭顔部形成において、特徴を示しているが、その他の部分では寧ろ劣つてゐるものが多く、特に身長、坐高等において小さく、握力、脊筋力において弱いということが出来る。

懸質遺伝者に対しては過去に多くのひとびとを出した形跡があるが、現在ではかなりこれ等懸質遺伝因子を淘汰していることが伺える。然し体構、生理作用等において秀れているといふことは出来ない。

要するに本血族結婚部落民は血族結婚によつて身体的に好影響をもたらしているといふことは出来ない。寧ろ労働作業力において劣つてゐる傾向があると言へる。